



# All Rikkyo Tennis

## セントポールテニスクラブ会報

発行所  
セントポールテニスクラブ

発行人 白 寄 誠 爾  
山 上 修 平  
井 上 陽

# 男子3部3位・女子2部3位

## 2016年11月20日(日) 100周年式典開催(於帝国ホテル)



### 「会長挨拶」

S 42年卒 倉光 哲

OBOGの皆様は於かれましては益々ご健康で活躍の事とお慶び申し上げます。

今年にはリーグ戦において男子が三部の三位女子が二部の三位という結果に終わりました。

来年度の創部100周年に向け掲げたリーグ戦において二部以上出来れば一部でのぞむという目標を今年も達成することが出来ませんでした。

又個人戦においても期待に値するほどの成績をあげることが出来ませんでした。

大変申しわけありません。しかし今年一年間の現役部員の個人戦、リーグ戦におけるテニスはまだ

がいく変化と進歩がみられここ数年では一番だと思えます。

何年か前から会長としての立場からではなくテニス選手の先輩として又他大学一校の選手のテニスを知る者としてのアドバイスを色々と現役にしてきました。

立教はストローク力は一校の選手に匹敵する。しかしプレーに男女共に変化なり先手を打つ策がないすなわちさきあらばネットをとる又はドロップショットでゆさぶるさらにドライブングボレーでしとめる等々です。女子の今年のリーグ戦の最終戦を戦い終わった直後の現役選手に対してのミーティングで私は来年は必ず一部に復帰出来る。といきりま

した。何故ならば今回は一部への入れ替え戦を僅差で逃したと今までのないプレーの変化を部員全員が意識し実行したからです。さらに男子も同じようにプレーでの変化は例年にくらべればできてきたが残念ながら女子ほどまでにはありませんでした。しかし男子も僅差で二部への入れ替え戦のチャンスを得たわけ、上部校と同等力のストローク戦にたよりすぎずに女子と同様に変化、先手に脱却すれば二部復帰は明確だと確信します。

部への入れ替え戦を僅差で逃したと今までのないプレーの変化を部員全員が意識し実行したからです。さらに男子も同じようにプレーでの変化は例年にくらべればできてきたが残念ながら女子ほどまでにはありませんでした。しかし男子も僅差で二部への入れ替え戦のチャンスを得たわけ、上部校と同等力のストローク戦にたよりすぎずに女子と同様に変化、先手に脱却すれば二部復帰は明確だと確信します。

関東のリーグ戦で立教のOBOG父兄の方々の応援の数の多さは今やテニス界でも話題になる位素晴らしい、あついサポートがあります。

OBOG現役一丸となり来年度の100周年をぜひとも女子一部男子二部でむかえたいと思っております。現役に対してのご声援ご支援を引き続き宜しくお願い申し上げます。

### 「理事長挨拶」

S 61年卒 山田 彰彦

1986年(S61)卒 山田彰彦です。理事長という大役を仰せつからせて4回目のご挨拶となります。

いつもOBOG会へのご理解、ご協力と、現役に対する温かいご支援をいただきありがとうございます。

また、日頃から現役部員への指導や、その他サポート頂いているスタッフの皆様にもこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、今年のリーグ戦は男女とも残念ながら昇格には至りませんでした。上部との差も感じ、昇格には多くの課題が見えました。現役の新体制もスタートし、課題を一つずつ乗り越えてもらいたいものです。

今年も多くの活動を行ってまいりました。7月には4回目になるリーダーシップ研修会を行い、各部員が昇格に向けて、自分は何をすべきかという「公約」を前面で宣言しました。経営学部で実際に実行されているこの研修は、企業研修でも利用されているプログラムで、本来なら有料となるところ、当部は実施前と実施後でどう変化していくのかという意味で研究対象にしていたのだとおかげで、現在は費用も掛からず実施いただいております。よって、部員にどのような影響を与えるのか、また結果にどう繋がるのかということをお聞かせ願います。成果に繋がることを願うばかりです。

また、今年4期目を迎える「体育会活動奨励金」申請の年です(3年ごとに審査)

第2期から当部は採択され、使途は主にコーチ招聘費とスカウトの旅費等に活用させていただいており、諸活動にとってたいへん重要な資金源となっており。

この資金を得るためには部の方針から始まって過去3年間の総括をし、それを踏まえて今後3年間の活動計画を詳細にすることが求められます。今回も担当する学生とOBOGでプロジェクトチームを編成し、延べ数十時間の議論を重ね、1

4ページにも亘る申請書に「思い」を込め、10月末に提出しました。1次の書類審査を通れば、その後面接を経て2月には結果が出ます。限られた大学予算の中、戦績が向上している他部も同様に議論を重ね申請していると思えます。その中で第3期は前期から増額していただいている身ながら昇格を果たせていない現状から、今回は厳しい戦いを強いられると考えております。一方で議論を重ねることはたいへん有意義で、関係者間で課題等の「見える化」に繋がり、ベクトルの方向が揃う一助になると思えます。

現役諸君には、昨年制定した「部の方針」に基づき、勝負に拘ることほもちろんの事、テニスを通して多様性に繋がる多くの機会を経験してもらい、部を築き立てて行つてほしいと思えます。

当部も来年で創部100周年を迎え、11月には式典も計画中です。

現役も節目の年に相応しい活躍をしてくれるものと思えます。OBOGの皆様におかれましては、ぜひとも引き続きのご支援を頂戴できましますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



### 「100周年実行委員長挨拶」

S 49年卒 浅見 豊

岸本元委員長、浜野前委員長の後を引き継ぎまして100周年実行委員長を拝命致しました1974年(S49)卒 浅見豊です。もとより浅学非才の身でこのような大役には、力不足ではありますが、博学多才な委員の皆様のお力添えをいただき、100周年事業を盛大に無事開催するべく準備中でありま

す。OBOGの皆様には、これまで多額のご寄付をご協力賜わり厚く御礼申し上げます。

また先般10月末には、100年史用の寄稿文、お手持ちの懐かしい写真等のご投稿をご案内させていただきました。是非、現役時代の思い出、エピソード、テニス部への想い、現役への叱咤激励などをお寄せいただき度く、重ねてお願い申し上げます。

さて、来年2016年11月20日(日)100周年式典を開催致します。倉光会長のご尽力により帝国ホテルを確保致しました。当日は、小西先輩をはじめとするテニス部100年の栄光の歴史、現在のテニス部の活動状況のご紹介に加えて、文科省のスーパードロウル大学に採択された立教大学と歩調を合わせた次の100年に向けての留学等を視野に加味しての方針も明示するなどの情報発信をしたいと考えております。

2016年11月20日の100周年式典へOBOGの皆様お誘い合わせの上、是非ご出席され久闊を叙していただき度く、衷心よりお願い申し上げます。







平27年度関東大学テニスリーグ 男子第三部結果表

	東海大学	東洋学園大学	立教大学	日本体育大学	東京農業大学	関東学院大学	勝点	順位
東海大学	-	4-5	6-3	6-3	8-1	8-1	4勝1敗	1位
東洋学園大学	5-4	-	4-5	8-1	7-2	7-2	4勝1敗	2位
立教大学	3-6	5-4	-	6-3	6-3	7-2	4勝1敗	3位
日本体育大学	3-6	1-8	3-6	-	6-3	8-1	2勝3敗	4位
東京農業大学	1-8	2-7	3-6	3-6	-	7-2	1勝4敗	5位
関東学院大学	1-8	2-7	2-7	1-8	2-7	-	0勝5敗	6位

平27年度関東大学テニスリーグ 女子第二部結果表

	明治大学	日本大学	立教大学	青山学院大学	駒沢大学	東洋学園大学	勝点	順位
明治大学	-	4-3	5-2	3-4	5-2	6-1	4勝1敗	1位
日本大学	3-4	-	4-3	4-3	4-3	5-2	4勝1敗	2位
立教大学	2-5	3-4	-	4-3	5-2	6-1	3勝2敗	3位
青山学院大学	4-3	3-4	3-4	-	6-1	7-0	3勝2敗	4位
駒沢大学	2-5	3-4	2-5	3-4	-	4-3	1勝4敗	5位
東洋学園大学	1-6	2-5	1-6	0-7	3-4	-	0勝5敗	6位

# 平成27年度リーグ戦結果

## 『最後のピース(Piece)』

H2年卒監督 山田 昇

まず初めに、大学関係者の方々、OB・OG、コーチングスタッフの皆様、付属校の顧問の先生方、ご父兄の方々、日頃の活動に多大なるご支援・ご声援を頂戴し、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

本年度も、そのご声援やご支援に対して、お褒めのお言葉を頂けるような結果を残すことができませんでした。

しかし、その中でも学生は持てる力を出し切り、勇気をもって一年間、そしてリーグ戦を戦い抜いてくれました。また四年生については、男女ともに少ない人数ながら、懸命にチームを引っ張っていったくれたと思います。たくさん、後悔はあるでしょう。でも、その後悔の数ほど、のちに活きてきますので、「後悔」「くやしき」を忘れずに、OB・OGとして胸を張って活躍してくれること、これからも応援し続けていきます。

今年リーグ戦を中心に振り返りますと、ようやく、はつきりとしてきたものがあります。ここ数年かけて作り上げてきたジグソーパズルの、残り一つのピースが。

ここ数年、「技術の向上」のために小野田コーチやトレーニングコーチの派遣、栄養学の講習の実施。そして「人間性や組織力向上」のために、リーダーシップ研修やジュニアクリニックの開

催。更に「理事会と現場の一体化」を図り、そして環境面でも富士見グラウンドの人工芝化、念願であった新座キャンパスのハードコート改修が今年遂に実現しました。多くのOB・OGの方々にご尽力とご協力を頂きながら、一つ一つピースをはめ込んできました。また、今年からは、鷲田強化本部長にコートで多くの実践練習を行って頂き、成果となって表れた事もたくさんありました。

多くの破片を集め、どんどんピースがはまって行く中、どうしても最後の1つの「ピース」が埋まりません。それは「学生の本気・情熱」です。このピースがはまれば、完成(目標達成)すると確信が持てているのです。

もちろん、学生に本気・情熱を持たせられない(現場)監督に全ての責任があります。また、すべての学生に当てはまる事ではなく、中には以上の本気・情熱を持った学生もおります。でも、目標としている男子二部昇格、女子一部昇格は、それほど簡単ではないという事も、ここ数年でよく理解している事でもあります。

私含め、多くのOB・OGの方々は、学生時代に戻りたい、戻ったら、あの時にこうしていたら、いや、もっと頑張っていたらと言う後悔ではなくとも、のちに想いをはせる時や事がたくさんあると思います。でも、どうでしょうか?その「想い」は、今現在の「活力」になっていない

でしょうか?でも、それが「活力」になるには、条件があります。それは、テニスというスポーツを通じて、これを真摯に追及し、勝利を追い求め、本気で命を懸けて、限界を超えて、そして情熱をもって過ごしていたかだと思います。

さあ、学生諸君。君たちに「変わってくれ」なんて無理な事はもう言わない。ただ、「行動してくれ」。ただ「やる」だけでなく、「考えて行動」し、そして「情熱」をもって取り組んでくれ。

「最後のピース」は、君たち自身で「はめ込む」しかないのです。君たちにしか、「最後のピース」は持っていないのです。

今、その手に、ピースを持っていかか?持っていたら、思い切り、押し込んで、はめてほしい。その時がジグソーパズルの完成の時。待っている。

## 『強化本部報告』

S53年卒強化本部長 鷲田 典之

今年の立教について、他大学はどう見ていたのかをリーグ戦終了後に聞く機会がありました。女子については、資格者の数から言って2部5位か6位で下部入れ替え戦に行くのではないかと予想されていました。結果は3勝2敗の3位でした。初戦の青学戦と第3戦の駒沢戦に勝利したのが大きく、第4戦の日大戦に惜しくも3、4で敗れましたが、これに勝てれば上部との入れ替え戦でした。

昨年比、日頃の練習で取り組んできたダブルスの強化の成果が出たと思います。具体的には、ストリートアタックが出来るようになった。ストリートアタックされたボールをキャッチ出来るようになった。ボールに出た時に、高いボールはアタック、低いボールはドロップショットの使い分けが出来るようになった。スピンドロブからの展開でドライブボレーの攻撃が出来るようになってきた。また、シングルスも通常のラリーからの展開では攻めるパターンが出来てきたことも大きかったと思います。



男子前主将 鈴木 理大

前年度主将を務めさせて頂きました、経営学部経営学科四年の鈴木理大です。私自身の大学生活全てをテニス部に注ぎ、これまで過ごして参りました。その活動の中で、普段の練習以外の細かなところでもOB・OGの皆様のサポートを頂いたことに対し、深く感謝しております。また同時に、立教大学体育会テニス部の一員であった事に誇りを持ってました。

主将として過ごした一年間は、私の人生を大きく変えてくれました。チームの方針を考えること、周りを促して臨機応変に舵を取ることに、全てに對し悩み考え抜きました。想定した通りにならない事が大半で、その度に苦しんでいました。しかしそれでもやってこられたのは、仲間の助言や、OB・OGの皆様の支えがあったからです。特に山田監督には大変お世話になり、もし山田監督がいらっしゃらなかつたら今の私はいないです。

私はチームとしての目標を達成することができませんでした。後輩には同じ思いをしてほしいので、これからは一人のOBとして後輩に思いを伝えて参ります。



男子前主務 桃井 洋太郎

昨年度、主務を務めさせて頂きました、現代心理学部映像身体学科四年の桃井洋太郎です。昨年の十月から多大なるご指導、ご支援を頂き、ありがとうございます。長いようであつたという間だったこの四年間は、私の人生でかけがえのないものです。一生の宝物となる先輩や後輩、そして同期と出会いました。学んだことは、テニスの技術だけではありません。一人の人として、大切な気概を学びました。環境や立場は変わっていきませんが、テニス部で得たものは、私の励みになると思います。仲間と共に過ごした時間を糧に、この先の人生も歩んで参ります。

主務としての一年間は辛い思いもしましたが、その分大きく成長出来たと感じています。初めは主務という大役が自分に務まるのか不安でしたが、周りからの支えがあり、職務を全うすることができました。近くで支えてくれたチームメイト、そして応援して下さいました皆様へ感謝いたします。昇格を経験したことがない私たちが最後のリーグ戦でこそ、昇格したいと思っていました。残留という結果に終わら、非常に悔しいです。この想いは後輩に託し、今後はOBとして現役部員を支えて参ります。最後に仲間とともに、最高の時間を過ごせて本当に幸せでした。四年間、本当にありがとうございました。ごさいます。

女子前主将

清水 理咲



昨年度主将を務めさせて頂きました法学部政治学科四年、清水理咲です。

昨年度も目標であった一部との入れ替え戦に挑むことが出来ず、二部三位の残留という結果でした。結果は一昨年度と同様ですが、リーグ期間が短くなり体力が求められ、環境下で怪我人なく倒れたこと、資格者が圧倒的少ない中で格上を倒したことを見れば、一昨年度よりもレベルアップしていると思います。

しかし、このチームが得た「後悔」は良い意味だと捉えます。結果を出せなかったことは反省して考えていくべきです。が、部員全員がした決断は、一生懸命考えて、決めて、行動し、全力で取り組んだからこそ得られた感情だと考えます。次年度はこの「後悔」をきちんと活かし、昇格する強いチームになります。自分たちの手では果たすことは出来ませんでした。が、これからはOGとして出来ることを全力で取り組みたいと思います。最後にOGの皆様には日頃よりご支援・ご声援を頂き、心から感謝しております。次年度も変わらぬご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

女子前主務

神田 聡美



昨年度、女子チーム主務を務めさせて頂きました。文学部教育学科四年の神田聡美です。

昨年度のリーグ戦は二部三位という結果に終わりましたが、私たちが一年間目標に掲げてきた「一部昇格」は達成することが出来ませんでした。一昨年度下入れ替え戦にかかった明治大学が圧倒的な強さを見せ、日本大学や青山学院大学と三つ巴をす

四年間を振り返るとあつという間でしたが、テニス部での活動は私にたくさん経験や成長を与えてくれた場でありました。たくさん先輩、後輩、監督・コーチの方々に、OB・OGの方々に支えられてきたことを大変感謝しております。これからはOGとして、その感謝の気持ちを返していきたいと思っております。四年間本当にありがとうございました。

男子前副将

吉澤 瑞樹



前年度男子チーム副将をつとめさせて頂きました。コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科四年の吉澤瑞樹です。

前年度男子チーム副将をつとめさせて頂きました。コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科四年の吉澤瑞樹です。御支援頂き、誠にありがとうございました。来年は私にとってかけがえのない時間となり、また、それは多くの先輩方、後輩、そして同期と出会えたからだと思います。特に同期の存在がなければ、私は途中で挫折してしまいました。人との関わりの中で学んだことも、環境が変わったとしても、変わることはない。価値観であり、それらは間違いなく私の人生の支えとなるものだと思います。

副将としての一年間は考えるものも多く、また得るものも多かった。手を出さず先ずは先輩方、同期、後輩がいたからこそ乗り越えられた。そうして御支援、御期待を頂いたなか、迎えたリーグ戦では残留という結果になってしまいましたが、後輩に託すと同時に、忘れることなく持ち続けます。そして、立場は変わりますが、昇格のために尽力して参ります。最後に、四年間を過ごすことが出来たのは、皆様の御指導、御声援があったからこそです。四年間ありがとうございました。

女子前副将

加藤 優里



昨年度副将を務めさせて頂きました。コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科四年の加藤優里です。

テニス部に所属した四年間を振り返って見ます。と本心に濃密で、沢山の学びや経験をさせて頂きました。OB・OGの皆様は温かいご支援や、熱く大好きな先輩、同期、後輩に恵まれた環境の中で四年間充実し、大変貴重な時間を過ごすことが出来ました。戦力として貢献することは出来ませんが、最後まで頑張りがついていたので、本当に皆様の御声援のおかげです。支えてくださった全ての方に心から御礼を申し上げます。

昨年「一部昇格」を成し遂げたかったリーグ戦でしたが、昨年度も残留という大変悔しい結果でした。しかし、インカレ・関東学生資格者が他部に比べて少なく、激戦区である中、二部三位というチーム全員で戦った結果は今年度期待が持てる大きな成果でもあったと考えます。現役生活で、OB・OGの皆様は昇格という形で恩返しすることができません。ですが、今後は今まで沢山の愛情を注ぎご支援して下さった分少しでも恩返しのできたらと考えております。最後にOB・OGの皆様、四年間本当にありがとうございました。

前学連

大坂 美孔



在籍中は部内の役割に就かず、関東学生テニス連盟の役員を務めさせて頂いた大坂美孔です。

私がプレイヤーとして活動したのは二年という短い期間ですが、立教大学体育会テニス部を背負う責任や誇りを監督・コーチを始め、OB・OGの皆様へ伝えていただき、同期には大きな負担を掛けてしまいました。また、OB・OGの皆様への期待に応えられなかったことを深く反省しております。

私たちが叶えられなかった一部昇格は、後輩たちが果たしてくれたいと思います。OB・OGの皆様、心から感謝しております。OB・OGの皆様、心から感謝しております。OB・OGの皆様、心から感謝しております。

前男子チームマネージャー

松島 優



昨年度男子チームマネージャーを務めさせて頂きました。法学部政治学科四年の松島優です。

大学三年次後期から四年次前期にかけてアメリカの大学へ交換留学をしてきたため、同期を始め先輩・後輩にとっても迷惑をかけながら、そして多くの場面で支えられながらテニス部に在籍した四年間でした。自らが主役として支えるマネージャーの役割について悩む事も多くありました。それでも現役部員のみならずOB・OGの皆様、そして保護者の方々を含めた全員が一丸となって向かうリーグ戦は、テニスという競技を通じて喜びや悲しみを多くの方と共有できる時間であり、改めて自分自身がチームの一員であることに感謝するとともに誇らしく思える瞬間でもありました。

私たちが叶えられなかった一部昇格は、後輩たちが果たしてくれたいと思います。OB・OGの皆様、心から感謝しております。OB・OGの皆様、心から感謝しております。OB・OGの皆様、心から感謝しております。

前男子チームマネージャー

渡邊 知可



昨年度男子チームマネージャーを務めさせて頂きました。社会学部社会学科四年、渡邊知可です。

テニス未経験者の私がマネージャーなど務まるのかと、入部当初は不安で仕方ありませんでした。しかし先輩方のご指導や、昇格に向けた部員の熱い想いを肌で感じ、一杯一杯のプレッシャー、応援し、いつしかテニス部が大好きになりました。立場は違えど昇格への想いは誰にも負けないくらい大きくなりました。実際にプレーをしていないマネージャーという立場というものはとても難しく、特にチームを導いていくには多くの壁に直面してはきました。自分には何が出来るのだろうかという悩み続ける毎日でした。同期や先輩、後輩と意見がぶつかり、とても辛い出来事も多々ありましたが、しかしそのようなときはいつも、監督、コーチ、OB・OGの皆様が支えてくださり、気にかけてくださり、なんとか引退まで走り続けることが出来ました。本当に有り難うございます。

私たちが叶えられなかった一部昇格は、後輩たちが果たしてくれたいと思います。OB・OGの皆様、心から感謝しております。OB・OGの皆様、心から感謝しております。OB・OGの皆様、心から感謝しております。

新幹部紹介

男子主将

菅野 貴仁



本年度主将を務めさせて頂くことになりました。文学部史学科三年の菅野貴仁です。昨年度のリーグ戦では、四勝一敗という結果であるのにも関わらず、入れ替え戦にかかわらず非常に悔しい思いをいたしました。私たちが出すべき結果は、三部全勝優勝、そして二部昇格することです。そのためには、現時点での課題を明確に打ち出し克服することが最優先です。また今までの甘い自分を捨て、厳しい環境に身を置き、本気でテニスに打ち込む必要があります。私は、全部員が共に切磋琢磨し合い本気で強くなりたいと思えるチームを作ります。昇格に必要なのは「質・量の高い練習」であり、そのための必要なのは「やり抜くための強い意志」であり、それが結果として「勝利・自信」となります。そのことを常に頭に置きながら、日々の練習に励みます。最後になりましたが、OB・OGの皆様にはいつもご指導ご声援を頂き、言葉だけでは感謝しきれません。この感謝の形に表すとすれば、強くなるプロセスを踏み切った私たちの姿を見せることのみです。今年昇格して、立教テニス関係者全員がこのチームの一員でよかつたという誇りを分かち合うべく、今年一年間日々精進して参ります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



女子主将 盛重 翔子



本年度、主将を務めさせていたことになりました。文学部教育学科三年、盛重翔子です。昨年度も、目標であった一部との入れ替え戦に挑むことが出来ず、二位で残留という結果でした。結果は、前回と同様に二位となり、同じく、個人個人の技術や体力面の向上・お互いを思いやり、チームのために行動する姿など、成長を実感できる場面も多々ありました。しかし、一部二部入替戦を観戦したところ、技術面や精神面、チーム力などの分野においても私達はまだまだ一部昇格するレベルには程遠いという痛感を感じました。この結果を真摯に受け止め、一年間やるべきことを行い、今年こそ一部昇格という目に見える結果を残します。私達が一部昇格するためには、真のアスリートになる必要があります。テニス面だけでなく、栄養や休息といった、私生活から自己分析・管理を徹底しテニスにプラスに繋がる行動を心がけて参ります。また、この一年間、主将として、日々の練習から一球も無駄にすることなく、結果にこだわる姿勢を覚悟を持って参ります。最後に参りましたが、OB・OGの皆様には日頃よりご支援・ご声援を頂き、心から感謝しております。精一杯精進して参ります。今後ともご指導・ご鞭撻の程宜しくお願致します。

男子主将 山上 修平



本年度主将を務めさせて頂くことになりました。経済学部経済政策学科三年、山上修平です。昨年度は、目標であった三部優勝、二部昇格を果たせず、三部三位の残留という結果でした。本来であれば、4勝1敗で入れ替え戦に挑める成績ではありましたが、勝敗は、勝負強さや思い切りが足りない試合もあり、勝たなければならぬ試合を取り切れなかったことが敗因です。また、一人一人の意識の甘さが挙げられます。この結果を受け入れ、来年昇格するために、男子チームはここで変わらなければなりません。厳しい道のりではありますが、現役部員一丸となり、今年度こそ、「二部優勝、二部昇格」を果たすべく、戦って参ります。また、私は主将として自分の成すべきことを成し遂げます。正直、主務のか不安な気持ちもあり、責任と誇りを持ってこの職務を全うする覚悟を決めました。テニスは今年度で創部一〇〇周年を迎えます。この一〇〇年という歴史の中には、OB・OGの皆様の様々な思いが詰まっています。私はOB・OGの歴史と伝統を大切に、立教大学体育会テニス部主務としてその名に恥じぬよう、誇りを持って精一杯努力して参ります。最後に参りましたが、OB・OGの皆様には日頃より多大なるご支援・ご声援を頂き、心から感謝しております。今後ともご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願致します。

女子主務 井上 陽



本年度、主務を務めさせていただきます。コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科三年、井上陽です。昨年度も残念ながら、「一部昇格」という目標を達成することができず、一敗の道のりの厳しさを痛感したと同時に、やるべきことは何なのか明確にし、やり遂げられることができれば、不可能な目標ではないという事を実感致しました。昇格すべきチームが昇格するのだと思います。そのようチームを作るために、私は主務としてできることを精一杯努めて参ります。目標達成の為に、幅広い視野を持ち、客観的にチーム全体をマネジメントしてまいります。部員全員が自主性をもち、自分の可能性を広げていくような環境を作りたいと考えております。また、この度、奨励金プロジェクトを担当させて頂いたことに感謝しております。この経験を自分だけのものにせず、部全体へ伝え、全員を巻き込み、全員で強いチームを築き上げていきたいと考えております。共に闘う仲間、感謝し、覚悟を決めて、一日一日を大切に過ごします。最後に参りますが、私たちが現役のために日頃より情熱を持って、ご支援をしてくださっているOB・OGの皆様、支えてくださったスタッフの方々、誠に感謝しております。今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願致します。

男子副将 鈴木 純



本年度、副将を務めさせて頂くことになりました。経営学部経営学科三年、鈴木純です。昨年度のリーグ戦は、四勝一敗という結果ではありましたが、チームとして三部三位、上入れ替えに挑むことが出来ず、今年も残留という悔しい結果に終わりました。本年度こそ、王座の舞台への第一歩として、一〇〇周年という節目に三部全勝を絶対にと果したために、日々の一分一秒を無駄にすることをなく、練習に励みます。そのためには、主務の補佐という役割ではなく、副将として、役職に関係なく自分が主務であるつもりで、自分しか出来ないことを、自分しか出来ないことを常に考え、チームを作り、引っ張っていくという気持ちでこの一年努力して参ります。また、いつも大事な場面で逃げてしまっている自分から決して逃げず、自分の背中を見て後輩たちが勇気を持つようになるような存在になることを、ここに約束致します。最後に参りましたが、OB・OGの皆様には日頃より多大なるご支援、ご声援を頂き、心から感謝しております。このご恩を昇格という結果で返しが出来るよう、日々精進して参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願致します。

男子副将 前島 克哉



本年度、副将を務めさせて頂くことになりました。経営学部経営学科三年、前島克哉です。今年のリーグ戦も四勝一敗という結果ではありましたが、三部三位という結果で終わってしまいました。さらには個人として、一戦目のシングルの途中で怪我をしてしまい、私の役割であった試合で勝つというチームに貢献するということが出来ませんでした。昨年のリーグ戦では非常に悔しい思いをし、その思いを晴らして昇格するという強い気持ちで準備して臨んだリーグ戦だったので、すごく悔しい気持ちでいっぱいでした。しかし、悔しい思いをし、反省点を考えるだけでは強くなることはできません。毎年この中途半端に行動して失敗をしてきました。今年は、しっかりと行動に移し、決めたことに対して継続性をもたせ一年間やり抜きます。OB・OGの方々、コーチの方々には大変多くの恩を感じており、支えて下さっている全ての方々のためにも必ず昇格をします。また、個人の目標として、インカレにいきます。今は、まだ本戦に上がった試合全一敗の戦を突破できていないので、来年の春にインカレに上がりチームの柱になります。最後に参りますが、昇格に向けて部員一同精進して参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願致します。

男子副将 高島 寛



本年度、副将を務めさせて頂くことになりました。社会学部メディア社会学科二年の高島寛です。今年のテニスの結果は団体、個人ともに悔しい結果となりました。リーグ戦では四勝一敗としながらも、三位置位。個人では、インカレ出場を目標としていた結果は届かず。敗れた相手は同じ三部校で、リーグ戦ではリベンジをかけて挑んだものの惜敗してしまいました。学生大会、リーグ戦を通じて、多くの課題を感じましたが、一番成長しなかったところは精神面です。人間としては大きく成長しなかった。強い気持ちを感じて、悔しい思いをし、反省点を考えるだけでは強くなることはできません。毎年この中途半端に行動して失敗をしてきました。今年は、しっかりと行動に移し、決めたことに対して継続性をもたせ一年間やり抜きます。OB・OGの方々、コーチの方々には大変多くの恩を感じており、支えて下さっている全ての方々のためにも必ず昇格をします。また、個人の目標として、インカレにいきます。今は、まだ本戦に上がった試合全一敗の戦を突破できていないので、来年の春にインカレに上がりチームの柱になります。最後に参りますが、昇格に向けて部員一同精進して参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願致します。

男子副将 山内 碧海



本年度、副将を務めさせていただくことになりました。社会学部メディア社会学科二年、山内碧海です。私は、入部してから二年度、リーグ戦を経験してきました。しかしながら、そのどちらも上入れ替えにかかるとはありませんでした。二部昇格という目標を掲げ活動している自分を含めたチームメイトや、それを様々な方面から支援してくださるOB・OGの方々のことを思うと非常に悔しく、なんとしてでもこの二部昇格を成し遂げたいという気持ちです。そのために、副将を任せられたことを大変嬉しく思います。私はこの一年、しっかりと空気を自ら行動で作り出すこと、学年を問わずに頑強なつながりを持つ二つの軸に部と関わってまいります。一つ目には、自分共々、練習環境を整えて、全員が前を向いて練習できる環境を作ります。また、移動や準備など、オファの切り替えなど、その時の部員に必要となることを考え、誰よりも早く行動します。二つ目については、オファの日や空いている時間などで同期ばかりでなく、先輩や後輩とご飯に行ったりし、コミュニケーションを密に交わします。その上で、厳しいながらも、お互いが昇格のために本気でぶつかり合っているという関係性を築いていきます。副将としてこのチームに目一杯働きかけ、百代身を全う前に進みます。全員の成長を導きます。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願致します。

女子副将 根本 奈々



本年度、副将を務めさせていただくことになりました。異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学学科三年、根本奈々です。根柢本々です。宜しくお願致します。昨年度のリーグ戦や入れ替え戦を観戦を通して、一部校の選手の心技体の強さ、自分達の現時点での実力を痛感し、昇格への壁の厚さを身に染みて感じました。昇格は中途半端な努力で達成できる目標ではありません。しかし同時に、前チームでチーム一丸となり戦ったリーグ戦の結果や経験を通過して、自分達の可能性にも改めて気付くことが出来ました。勝てない相手はいない、決して越えられない壁ではないということですので、昇格にふさわしいチーム、勝つべき選手が勝利します。その為にチームが在るべき姿、私がやらなければならない事は以前より明確にありません。後は残り十か月で、どれ程自分やチームに厳しく努力が継続出来るかどうかです。ラスト一年、今までの全ての悔しさを胸に、日々後悔の無いよう昇格に向かって全力を尽くし、私達現役部員とともに、同じ目標に向かって支援して参ります。最後に参りますが、OB・OGの皆様、一緒に戦う仲間への感謝の気持ちを大切に取組んで参ります。今後ともご支援の程宜しくお願致します。

女子副将 浅山 貴和子



本年度副将を務めさせて頂くことになりました。二年浅山貴和子です。今年のリーグ戦ではメンバーとして試合に出場していましたが、目標に掲げることができませんでした。このとき感じた悔しさを忘れることなく、リーグ戦を通じて明確となったチームの課題点を克服していく一年間にしたいと考えています。実力の拮抗している二部で勝ち上がり、一部昇格を果たすためには、部員一人一人が心の持ちようを変えて取り組むことが大切になってくると思います。今年の一年間は、部員が大きく成長しているように、失敗を恐れることなく、新たなことに挑戦するチームを作り上げていきたいと思えます。そして、「良い」チームであることに満足せず、「強い」チームになることを目標に精進してまいります。

女子副将 吉川 千晶



本年度女子チーム副将を務めさせて頂きます。文学部文学科英米文学専修二年、吉川千晶です。十月から新体制となり新しいチームでの戦いが始まりました。女子チームでは代が変わる毎に部員で話し合っって部旗に掲げる文字を決めています。今年度も私達は「克」という字を選びました。この字には「相手に勝つ」だけでなく、「自らに勝つ」、「下剋上」という意味が込められています。昨年度のリーグ戦では自分自身やチームへの厳しさが足りない、競り合った試合で勝ちきれない一部校や同部校と比較し圧倒的に資格者が少ないという課題が挙がりました。課題を克服し昇格するためには、心技体の備わった真の意味で強いチームに成長し、格上の相手に勝つていかなくてはなりません。これから一年間、部旗に込めた思いを胸に、部員一同練習に励んで参ります。また今年度は百周年を迎える、貴重な年でもあります。伝統と歴史のある立教大学体育テニス部の部員であることに誇りを持ち、今年こそ昇格できるように日々精進して参ります。

男子副将 山田 修成



本年度副将を務めさせて頂くことになりました。経済学部経済政策学科二年、山田修成です。私は入部してから二度リーグ戦を経験しました。目標である昇格には届くことなく、毎年悔しい思いをしてきました。一年時は、ただ死にもの狂いで出来ることをやり遂げ、辛い思いを経て人間的に成長できました。この一年間は、課題の残る結果となりました。二年時は様々な経験から昇格への思いが更に強くなり、上を見据えて全員で練習してきました。どこかで甘さや緩みが出てしまい、あと一歩残留という結果になってしまいました。創部一〇〇周年を迎えるにあたり、三部定着から二部昇格へとステップアップするためには、三年生を軸に全員で強く戦い、戦う集団にならなければなりません。そのために、覚悟と信念を持って精進して参ります。

女子副務 柳澤 祥瑚



現代心理学部映像身体学科三年副務、柳澤祥瑚です。私達が入学してから早くも二年半が経過し、いよいよ先頭に立って女子チームを導いていく学年となりました。私は副務という役割をいたいただき、テニス部が円滑に日々の活動を行っていきけるように主務の井上のサポートや、昇格という目標に向かって正しく進めているかを客観的に見つめながら、常に問い質し続ける役割を担っていきたくと思います。また、昇格のために己の技量を磨き、トレーニング係としても学生トレーナーと協力し、率先して外部からの情報を取り入れて、テニス部の活動をさらに活性化できるように取り組んで参ります。また、リーグ戦での質の高いパフォーマンスにつなげるように、部に貢献して参ります。

女子副務 中込 理緒菜



本年度、副務を務めさせて頂くことになりました。文学部教育学科二年、中込理緒菜です。二回目のリーグ戦を終え、新体制となりはや一ヶ月が経とうとしていきます。四年生が引退されたから、新幹部の副務としての役割をいただき、新しい挑戦への不安と、期待が胸がいっぱいな日々を送っています。一年生として精一杯駆け抜けた一年間では、上級生の役割や仕事を見る事もできずじまいでしたが二年生として上級生と二年生をつなぐパイプ役をしていくうちに、トップがいかに責任感を伴うものなのかを痛感した一年となりました。

女子副務 中西 萌夏



本年度副務を務めさせて頂くことになりました。現代心理学部心理学科二年の中西萌夏です。本年度のリーグ戦でも立教大学の強さであるチーム力を発揮し戦いましたが、目標である一部昇格には届きませんでした。リーグ戦を終え、新体制となり、早二ヶ月が過ぎました。次のリーグ戦で一部昇格するためには、強いチームを作ることが重要です。それは、一人一人の甘えを無くしていくということそのためには、個々のレベルアップを図るとともに、日々部員全員のベクトルを昇格という方向にそろえ、目標達成のために全員ができることを主体的に受け入れ活動することが必要となります。

新入生紹介

1年 上島 郁巳



千葉県私立立教池袋浦安高等学校出身、経営学部経営学科一年の上島郁巳です。私は高校入学を考えたとき、千葉県で一番強い高校に入り、自身のテニスを更に伸ばしたいと考え、東京学館浦安高等学校に入学しました。テニス部では、実力のある先輩、同期、後輩に恵まれて、常に向上心を持ち、練習に励むことができました。その結果、団体戦では全国選抜ベスト八、関東高校三位、インターハイベスト十六の結果を出すことができました。しかし、後悔も多くなりました。大学で更に自身のテニスを高めていきたいと考え、立教大学体育会テニス部の練習環境を感じ、立教大学体育会テニス部への入部を決意しました。初めてのリーグ戦では悔しい思いをする事が多く、リーグ戦で勝つことがどれほど難しいことなのかを身を持って経験することができました。リーグ戦での負けは、どんな試合内容だったとしても許されたいことを強く感じました。

1年 甲賀 光



東京都私立立教池袋高等学校出身、経営学部経営学科一年の甲賀光です。私は立教池袋中学校・高等学校の庭球部に所属しておりました。テニスは中学校入学と同時に始めたので、早くも追い追いつきたいと思い、学校外でも練習を重ねました。そして、中学三年生の時には団体戦のメンバーとして試合に出場することが出来ました。また、高校二年生の時にも団体戦に出場させて頂きました。しかし、私の負けで東京都ベスト8を逃してしまいました。その為、先輩方に迷惑をかけ、非常に悔しい思いをしました。また、中高通して、コーチ練習や合宿、団体戦において立教大学体育会テニス部の先輩方に大変お世話になりました。テニス以外のことも学ばせて頂きました。このような伝統あるテニス部でテニスを続けていきたいと思ひ、入部を決意致しました。

最後に参りましたが、OB、OG、監督、コーチの方々には日頃か

OB、OG、監督、

最後に参りましたが、OB、OGの皆様には日頃か

最後に参りましたが、OB、OGの皆様には日頃か

最後に参りましたが、OB、OG、監督、

最後に参りましたが、OB、OG、監督、

最後に参りましたが、OB、OG、監督、

最後に参りましたが、OB、OG、監督、





1年 光田 凛

神奈川県立湘南台高等学校出身、コミュニティ福祉学部コミュニケーションイテイ政

私は兄の影響で幼い頃からテニスを始めました。中学校は公立で硬式テニス部がある学校に入



1年 佐藤 慶

埼玉県私立立教新座高等学校出身、コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス

私は幼い頃からテニスを始め、中学校では立教新座中学校に入



1年 武田 有弘

東京都私立立教池袋高等学校出身、法学部国際ビジネス

私は小学校の頃にテニスを始め、中学校、高校と、テニス部に



1年 田村 泰輝

茨城県私立茗溪学園高等学校出身、経営学部経営

私はテニスを小学二年生の時に始めました。最初は兄の影響で週



1年 恒松 海

千葉県私立東京学館浦安高等学校出身、経営学部

私は幼いころにテニスを始め、小学校低学年から大会



1年 藤井 征彰

埼玉県私立秀明英光高等学校出身、文学部文学

私は小学三年生からテニスを習い始めました。それからは、学校終わ



1年 山上 貴士

東京都私立立教池袋高等学校出身、文学部教育

私は、小学五年生の時にテニスを始めました。小学校ではテニス部に



1年 加藤 暁子

東京都私立大妻中野高等学校出身、社会学部現代文化

中高では運動部で選手として活動していましたが、



1年 小島 範子

東京都私立立教女学院  
高校出身、社会学部現代  
文化学科一年の小島範子  
です。

私は、マネージャーとしてテニス部に入学させていただき、中学、高校時代は、テニスの経験はほとんどありませんでした。また、運動部を経験したわけでもなく自分に対して甘い人生を送ってきたと思っ、大学では、一歩進みたいという目標を持ちました。そこで体育会テニス部に入学し、自分を成長させたいと考えています。また、マネージャーは、テニス面でプレーヤーと同じ辛さを味わうことはありません。しかし、プレーヤーの一番身近であり、客観的な立場で見ることが出来るという特別な視点を持つています。それを生かし、マネージャーなりにテニス部に貢献したいです。



1年 芦田 恵

東京都立小石川中等教育学校出身、コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科一年、芦田恵です。

私は中学高校の約六年間テニス部として活動していましたが、六年の活動を通して私は自分の無力さを痛感しました。それは、選手が怪我などでテニスができないときに何もできなかったり、またその状況を防ぐことができなかったためです。そのような思いを二度とほしくないと思え、選手を怪我から守ることが出来るトレーナーという道を歩むことを決めました。



1年 窪田 夏奈

東京都立富士見丘高等学校出身、経営学部経営学科一年、窪田夏奈です。

立教大学体育会テニス部に入学し、約半年が経ちました。入部当初は不安や戸惑いも多々ありましたが、今では部員の皆さんと切磋琢磨し、支え合いながら自分自身を磨くことのできるこの部活に所属していることに誇りを感じています。



1年 高橋 未来

神奈川県立川和高等学校出身、法学部法学科一年、高橋未来です。

立教大学体育会テニス部に入学して、約半年が経ちました。高校時代まで本格的な部活を経験しなかった私にとって大学の体育会に入ってテニスをすることは一つの挑戦でもありましたが、入部当初は慣れない環境に適応することができず、先が見えない不安の中ただがむしやりに毎日を送っていました。今ではテニス面に、大学生活ともに非常に充実した毎日を送ることができています。



1年 畑 莉々香

千葉県私立東京学館船橋高等学校出身、法学部法学科一年、畑莉々香です。

立教大学体育会テニス部に入学して約半年が経ちました。小学生の時にホームカミングデーで立教大学を訪れ、以降大学は立教大学に入学したいという気持ちが強くなりました。高校生の時に立教大学体育会テニス部の練習に参加させて頂いたことに、部員の皆さんが自分自身にストイックで二球への執着心を感じました。



1年 三井 葉月

愛知私立愛知啓成高等学校出身、文学部教育学科一年、三井葉月です。

私は愛知啓成高校でテニス部を一年作り上げてきました。やるべきことが自分たちでどうしたいかを考えて行動することが多くありました。しかし立教大学の体育会のテニス部に入学させて頂き、私がいかに甘かったかを痛感しました。立教大学のテニス部では規律・競争・団結が掲げられています。礼儀の正しさや言葉遣いなどテニス以外の面での成長も実感しています。またテニスの面でも部内で日々切磋琢磨し、これから四年間全員で実力を上げていきたいと思っています。



1年 山田 絵理子

東京都私立香蘭女学校高等科出身、経済学部経済学科一年、山田絵理子です。

立教大学体育会テニス部に入学して、約半年が経ちました。今まで大変だったことや辛いことがたくさんありましたが、今では、自分がこの部活に所属していることに誇りと喜びを感じております。

学生のリーダーシップ活動について

テニス部では様々なプログラムによりリーダーシップやダイバシティ活動を積極的進めており、学生によるイベントの企画運営をおしサービスラーニングを実践しています。今後も社会に貢献する人間育成に意義のある活動を続けていきます。

【1】第3回リーダーシップ研修会  
2014年11月8日

【2】新座市民スポーツ教室指導  
2014年11月30日

【3】東日本ろう者テニス協会の選手との交流試合  
2015年3月22日

【4】Road to S Pain チャレンジカップ予選大会運営手伝い  
2015年6月6日

【5】朝日新聞チャレンジA指導手伝い  
2015年7月12日

【6】第4回リーダーシップ研修会  
2015年7月19日





# 体育会OB・OGクラブ表彰

## テニス部二年連続受賞

今年一月の体育会総会で、驚田強化本部長が表彰の栄誉を受けました。ウインブルドンでの世界ジュニア国別対抗戦での日



本代表監督が授賞理由です。昨年の女子部寺田・吉田に続き二年連続テニス部から受賞者を輩出しました。続け男子部!!

# ARTプロジェクト委員会

## 「活動報告」

H4年卒 増田 哲也

ARTプロジェクト委員会は、2011年11月23日の学院合同練習会の後、立教テニス全体の底上げと強化、そして社会に貢献できる人材の育成を目的に有志により活動を開始いたしました。

2011年度より正式にSPTCの一組織として、関係校の連携強化や選手の育成、また学院合同練習会の運営などを行ってまいりました。5年目を迎え、学生を中心に充実した活動を行っています。

団体	3件
ボート部	第92回全日本選手権 男子 船手村幸平2位 第41回全日本選手権 男子 船手村幸平2位 第41回全日本選手権 男子 船手村幸平2位
モーターボート・水上スキー部	桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会 男子団体総合優勝 女子団体総合優勝
ローラーホッケー部	第56回全日本学生ローラーホッケー選手権大会 男子の部 優勝 女子の部 優勝

個人	4件
アメリカンフットボール部	山形 聖一 社 1 IFAF(国際アメリカンフットボール連盟)第3回U-19世界選手権大会 出場国8カ国第5位 日本代表選手として出場
アメリカンフットボール部	鈴木 理安 文 1 IFAF(国際アメリカンフットボール連盟)第3回U-19世界選手権大会 出場国8カ国第5位 日本代表選手として出場
陸上競技部	出木田 真紀 コミ 1 第15回世界ジュニア陸上競技選手権大会(米國) 女子5000m 第6位入賞
洋弓部	大友 謙 経 2 第69回国民体育大会 アーチェリー競技会 神奈川県代表選手として成年男子団体戦優勝

OB・OG	4件
アメリカンフットボール部	山形 聖一 H26経営 FISU(国際大学スポーツ連盟)第1回アメリカンフットボール大学世界選手権大会(U-23) 出場国5カ国第2位 日本代表選手として出場
テニス部	藤田 真之 S53社会 第5回U16ジュニアワールドワイドファイナル 日本代表監督
ソフトテニス部	藤下 敏宏 S45経済 アジア競技大会(韓国)ソフトテニス競技 チーフレフリー
水泳部	大友 謙 H19理 第17回アジア大会(韓国/仁川) 近代五種、日本代表メンバー4名の一人として出場。団体銀メダル

【1】池袋・新座中高についで  
コーチ派遣、練習指導、夏合宿および春合宿参加、公式戦の応援・指導などを行いました。特に副委員長の昆野・柳内OBには練習指導、公式戦応援・指導にご尽力いただき、中高との連携が深まり良好な関係ができています。また実力もアップし選手強化が実を結びつつあります。今年度、池袋中学は東京都第4ブロック団体戦優勝、新座高校は全国高校総合体育大会テニス競技埼玉予選会団体2位で関東大会に進出、埼玉県高校テニス競技新人大会2位の戦績を残しました。

【2】立教学院合同練習会(2014年11月23日)  
新座中高のご協力により14面のコートを使用し、150名を超える選手が一堂に会して行われました。準備から運営まで学生主体で行っており、男子チーム・女子チームが協力して携わっています。会を重ねるごとに内容が工夫され充実した練習会になっていきます。小中学生や高校生を指導することも学生にとって大変良い経験です。今回は特に小中学生に対する指導に対し先生方から高い評価をいただきました。

【3】第5回小野田アテニスクリニック  
今年で5回目を迎えました。43名のジュニアが参加し新座のオムニ、ハード6面を使用して学生主体で行われました。毎回大変好評でリピーターも多く、ジュニアの中で、このクリニックの認知度が高まっています。立教の良さを多くのジュニアに知っていただき、立教ファンを増やしていけたら嬉しいです。学生はイベントの企画運営を通して多くのことを学び良い経験になっています。

【4】第4回ART女子合同練習会(香蘭女学院高等科・立教女学院高校)  
女子合同練習会は今年で4回目を迎え、立教女学院高校テニス部は2回目の参加でした。ジュニア

【5】立教女学院高等校テニス部への練習参加  
立教女学院高校テニス部への練習参加は、月1回女子チームの部員が交代で行っています。昨年度は立教女学院から1名、今年度は香蘭女学院から1名入部しており、また多くの女子マネージャーも活躍しています。今後も女子関係校との交流がますます盛んになるよう活動を続けていきたいです。

立教池袋中学校  
「立教池袋活動報告」  
顧問 重原 康秀  
立教池袋高校  
「2015年度の歩み」  
顧問 吉田 清典  
立教新座高校活動報告  
顧問 平山 晋



立教池袋中学校通信  
「池袋中学校庭球部通信」  
大会結果  
▽ブロック大会個人戦  
S 準優勝 木村  
D 優勝 齋藤・地主  
第三 齋藤・地主  
津屋・唐鎌  
▽都大会個人戦  
S 第一七位 木村  
D 第一六位 齋藤・地主  
D ベスト8 齋藤・地主 (全中出場)  
▽ブロック大会団体優勝  
▽都団体戦 第三位 (関東出場)  
▽都ブロック大会新人戦  
S 優勝 木村  
D 優勝 木村・神田  
第三 廣瀬・原田  
▽都新人団体戦 第五位 (関東新人団体出場)  
顧問より  
仲間との絆に支えられ、常に前向きにボールへ向き合った三年チームは、ぎりぎりの試合もあきらめることなく勇気と粘り強さを持ってこれを制し、一年部員の目の覚める様な強気のショットの励ましを受け、上位シードを破って都三位に進出、関東大会へ駒を進めた。念願の全中団体出場は惜しくも果たせなかつたものの、個人戦では主将・主務ペアが長時間の試合を意地で制し、十年ぶりの全中出場を果たした。先輩たちの勇姿は下級生の心にも刻み込まれ、都新人団体戦における五回戦の苦しい試合を勝ち抜き、関東進出を決める原動力となった。新チームも目標を高く持ち練習に励んでいきたい。

立教新座高校通信  
立教新座高校テニス部は、関東・全国レベルで勝つことを今年目標を置き、七十名の部員で日々活動をしている。昨年の新人大会団体戦では、関東選抜出場まであと一歩と迫りながら惜敗した。結局、秀明英光に勝利したが、浦和学院・川越東に続く第三位に終わった。その雪辱を期して臨んだ五月の関東予選では、三位入賞し、二〇〇七年以来の関東大会出場を決めた。個人戦でも単で西崎健太(二年)、複で西崎健太・尾島萌杜(三年)が関東大会に出場した。そして、インハイ予選決勝では七十名の部員一丸となり戦ったが、全国大会の常連校となりつつある川越東に二対二で惜敗した。常に上位の大会に出場し、プレッシャーのかかる場面での経験の差を痛感した。直近に行われた新人大会団体戦では、優勝した川越東には三対二で勝利し、一九九九年以来の関東選抜出場を勝ち取った。これは、推薦制度によって入学した選手と、中学テニス部出身の選手がうまくチームとして融合したことで、そしてその選手の中から押し、勇気を与えてくれた部員の応援が要因である。十二月二日から白子町で開催される関東選抜では、一九九八年以来の全国選抜出場勝ち取るため、立教新座らしく戦う所存である。最後に特にARTの一貫として、部員を熱く指導してくれる柳内氏、様々な場面で練習に協力してくださった体育会の諸君には、この場を借りて感謝いたします。絶対に全国選抜に行きます!!

# 2015年度年会費ありがとうございました。

2015年10月31日現在

1967年以前のOB・OGの方々は会費免除になっておりますが、  
たくさんの方々より寄付金としてお預り致しました。

### 卒年 OB 氏名 (敬称略)

1968	沢松 忠幸	佐藤 俊彦	三浦 充行	有間 八郎
1969	占野 靖宗	須田 健治	志田 光顕	富田 次郎
1970	宇野 治	朝倉 伸行		
1971	笠原 賢次郎	日高 啓吾	安田 清志	
1972	加藤 雄一	安達 幸男	若井 新司	中矢 真人
1973	清水 春海			
1974	浅見 豊	今井 広幸	武藤 憲二	鈴木 徹雄
1975	梅田 憲司	井畑 清	中島 幸彦	大里 有二
1976	佐藤 信夫			
1977	鈴木 宏	石上 富一		
1978	山下 哲夫	鷺田 典之	井筒 浩平	
1979	角野 俊平	鈴木 康正	秋元 英晴	渡辺 薫
	岩立 文雄	原田 豊	加倉 井理	澗田 雅之
1980	松村 隆司	金原 厚		
1981	早川 寿美	岸本 誠	竹石 敬之	細田 寛
	谷口 秀治			
1982	伊藤 久幸	平山 元	坂井 邦夫	高橋 宏幸
	田鍋 文啓			
1983	庄野 俊夫	井上 勇人	染谷 孝幸	上杉 信久
	田淵 浩史	旗 栄一郎	竹下 喜六	大井 洋隆
1984	藤井 孝信	阿部 弘行		
1985	笠原 康司	高橋 守種	横山 浩	藤原 誠之
	沢井 清隆			
1986	大岡 史直	佐藤 昭一	山田 彰彦	清宗 一男
	石川 順	吉田 耕一郎		
1987	牛込 耕二	折田 浩介	柴原 公博	辻野 廣行
1988	新谷 守夫	最賀 智正	上杉 佐	高山 和則
1989	武市 広治	青山 貴志	中島 浩	
1990	東樹 秀明	白寄 誠爾	小島 敏正	木村 達彦
	昆野 敦	田中 周作	渡辺 正和	山田 昇
	篠崎 享史			

### 卒年 OB 氏名 (敬称略)

1991	戸田 雅道	多田 比呂哉	柳内 崇	小田 真義
1992	増田 哲也	足立 充生		
1993	保泉 敦	片岡 聡	深澤 伯亮	金子 誠
1994	相見 典祐	後藤 孝	二塚 圭介	
1995	太田 治	中川 孝博	千葉 素久	小俣 光司
	宮本 匡彦	羽鳥 貴也		
1996	山崎 雄一郎			
1997	久々 湊 仁彦	神藤 浩史	阿部 宏	
1998	村木 祐介	吉崎 太二	里和 勇人	大熊 隆史
	岡 利之			
1999	高田 健太郎	大野 潤三		
2000	真田 康志	斎藤 征爾		
2001	藤井 学			
2002	戸田 淳	豊住 浩史		
2003	宇賀 神直	真鍋 隆志	四家 健司	
2005	嶋津 亮			
2007	五味 晃一	高橋 泰洋	神山 直樹	鎗木 悠生
	阿部 研人			
2008	佐藤 智哉	高橋 真也		
2009	田村 浩紀	永田 佳彬	平岩 佳祐	柏原 啓大
2010	原田 秀太			
2011	緒形 昌輝	米津 吉晃		
2012	山崎 純史郎	箭橋 喬彦	吉井 佑	
2013	松沼 豊人			
2014	大竹 徹	篠田 翔平	坂本 拓斗	川上 悟央
	山田 真大	高野 順帆	池田 和貴	中澤 裕貴
	高橋 勇佑			
2015	鏡 健斗	田口 陽平	河村 準哉	吉田 圭佑

### 卒年 OG 氏名 (敬称略)

1968	林田 千史	片山 康子	斉藤 弘子	
1970	木本 美代子	古庄 篤子	長濱 町子	倉科 鈴恵
1972	伊藤 美枝子			
1977	吉川 裕子			
1978	吉原 典子	山下 実果	小泉 恵子	
1979	村田 由子	堤 千賀子	山田 優子	戸松 まさみ
1980	黒坂 美也子	山下 節子	福嶋 由起	ダン 千里
	杉沢 香			
1982	坂井 裕美			
1984	池田 由紀子	後藤 悦子	篁 典子	
1985	永田 良子	藤原 亜美	服部 敦子	
1987	山森 涼子			
1991	島田 千代			
1993	西村 恵美	吉川 かおり		
1994	吉川 明見			
1995	山崎 江津子			
1997	阿部 玲子			
1998	須賀 涼			
1999	白井 暁子	金谷 美幸		
2000	真田 明日香			
2001	太田 佳世子	井口 郁子		
2004	中條 奈保子	寺岡 佑希子	石原 悠子	
2005	佐々木 ひとみ			
2006	根岸 芳恵	久木田 安奈		
2007	鎗木 恭子			
2008	松本 奈穂子	佐藤 夕葵		
2009	塚田 晶子			
2010	大森 有美子			
2011	横山 由貴	福田 菜穂子		
2012	手塚 絢	浅野 亜由美	高津 香和奈	国嶋 ひとみ
2013	金森 怜子	谷川 麻里絵	杉原 愛	
2014	寺田 美邑	吉田 恵美	角田 芽優	渡邊 佳世
2015	金子 真奈	大岩 紗織		

## 創部100周年記念事業募金にご協力頂き有り難うございました。

2015年11月現在

### 卒年 OB 氏名 (敬称略)

	伊藤 謙哉	栗原 謙二	日向野 幹也
	西村 博文	舟田 正之	湯川 宣雄
1943	岡野 利壽		
1950	山本 実	原田 博	橋本 幸雄
1951	平野 謙哉	迫 哲夫	飯塚 繁
	平山 照康		
1952	岸本 駿二	橋本 幸信	一條 正志
	阿部 正夫		
1955	平澤 秀吉		
1956	小野 真義	森 恵	向井 和夫
	堀井 章男		
1957	宮岸 武	辻本 正司	永山 勝三
	笠原 伸介		
1958	藤林 勇雄	川上 岳	高本 佳一
1959	小田原 正直	井田 悦夫	井上 隆二
	小笠原 潤	瓦林 聖児	寺井 政勝
	副島 光彦	飯郷 七朗	
1960	河内 進		
1961	山中 博司		
1962	鎗田 秀雄	安達 正純	石井 達二
	小西 一三	栗田 進伍	
1963	下村 直史	合瀬 武久	広瀬 武
	倉光 純	西宇 昭男	近藤 紘二
	西山 憲一	橋本 宏	
1964	唐澤 靖治	高橋 道男	伊藤 正信
	石黒 潔	笹山 隆男	
1965	広瀬 省蔵	井上 詔夫	町田 昭雄
	平井 克忠		
1966	大田 洋一		
1967	濱野 公哉	原田 正明	倉光 哲
	出口 誠之	豊田 資朗	
1968	佐藤 俊彦	澤松 忠幸	大石 正光
1969	占野 靖宗	富田 次郎	
1970	上野 城太郎	宇野 治	朝倉 伸行
1971	日高 啓吾		
1972	中矢 真人		
1973	内原 康雄	清水 春海	

### 卒年 OB 氏名 (敬称略)

1974	浅見 豊	鈴木 徹雄	武藤 憲二
	今井 広幸		
1975	梅田 憲司	中島 幸彦	立野 公一
	大里 有二	井畑 清	
1976	鈴木 一広	佐藤 信夫	
1977	鈴木 宏		
1978	山下 哲夫	鷺田 典之	
1979	原田 豊	加倉 井理	鈴木 康正
	渡辺 薫	角野 俊平	秋元 英晴
1980	金原 厚		
1981	早川 寿美	岸本 誠	竹石 敬之
1982	田鍋 文啓	坂井 邦夫	平山 元
	伊藤 久幸		
1983	井上 勇人	庄野 俊夫	旗 栄一郎
	田淵 浩史	大井 洋隆	上杉 信久
1984	阿部 弘行	藤井 孝信	
1985	高橋 守種	藤原 誠之	
1986	大岡 史直	佐藤 昭一	山田 彰彦
1987	柴原 公博	折田 浩介	
1988	新谷 守夫	清 隆一郎	
1989	中島 宏誌	武市 広治	
1990	山田 昇	白寄 誠爾	小島 敏正
	昆野 敦	田中 周作	
1991	小田 真義	柳内 崇	
1992	園田 真弓		
1993	片岡 聡	保泉 敦	
1995	宮本 匡彦	青崎 琢弥	中川 孝博
	千葉 素久		
1996	山崎 雄一郎		
1997	久々 湊 仁彦	阿部 宏	神藤 浩史
1998	大熊 隆史	村木 祐介	里和 勇人
1999	高田 健太郎		
2000	斎藤 征爾		
2001	藤井 学		
2003	生島 史浩		
2007	五味 晃一	阿部 研人	鎗木 悠生
	神山 直樹		
2009	永田 佳彬	平岩 桂祐	

### 卒年 OG 氏名 (敬称略)

1961	八木下 紗繪子		
1962	森 幸子		
1963	松平 紀代		
1964	笹山 俊子	田澤 幸子	
1965	川上 浩子		
1966	松田 弓子		
1968	林田 千史	片山 康子	吉川 加代子
	大倉 田鶴子		
1970	石谷 こずゑ	長濱 町子	倉科 鈴恵
1975	飯塚 圭子	穂山 陽子	
1977	吉川 裕子		
1978	山下 実果	小泉 恵子	
1979	戸松 まさみ	堤 千賀子	
1980	山下 節子	黒坂 美也子	福嶋 由起
1982	坂井 裕美	樺澤 恵美子	
1984	池田 由紀子		
1985	増沢 真弓	藤原 亜美	永田 良子
1987	増村 真理子		
1991	島田 千代		
1993	西村 恵美		
1994	加藤 明見		
1996	鈴木 麻衣		
1997	阿部 玲子		
2000	塩沢 ちえり		
2001	井口 郁子		
2004	石原 悠子		
2012	手塚 絢		

### 計 報

- 日根野一郎先輩 (昭和36年卒)  
平成26年 2月
- 小場 幸子先輩 (昭和53年卒)  
平成26年 6月 6日
- 高柳 博臣先輩 (昭和32年卒)  
平成26年 9月 26日
- 笹山 隆男先輩 (昭和39年卒)  
平成26年 12月 5日
- 横山 正昌先輩 (昭和34年卒)  
平成27年 10月 4日

2015年11月までの募金残高は 6,543,901円 となりました。  
 来年2016年に創部100周年を迎えます。募金目標額は1,000万円です。今後とも募金事業にご協力下さい。  
 100周年記念事業募金の口座案内 みずほ銀行 池袋西口支店 (普通) 1102894 立教テニス部100周年